

序 章 神・儒・仏の時代

若尾政希

3

- 一 宗教とは何であつたかを問う前に 4
- 二 近世は神・儒・仏の時代なのか 6
- 三 本書の概要 11

第一章 「天道」思想と「神国」観

神田千里

19

- 一 はじめに——「天道」思想への注目 20

- 二 「天道」思想の諸特徴 22

- 三 「天道」思想のひろがり 28

- 四 豊臣秀吉の「神國」観 37

- 五 おわりに——「多神教」の国日本 44

第二章 神・儒・仏の交錯——「太平記読み」とその時代

若尾政希

49

- 一 はじめに 50
- 二 「太平記読み」の時代 51
- 三 天道委任論の形成と定着 62
- 四 天道・コスモロジーと思想形成 75

五 おわりに——天道委任論と「天地の子」論 82

第三章 近世仏教と民衆救済——黄檗宗の利他の精神と社会事業··· 87
蓑輪顯量

- 一 はじめに 88

- 二 日本における黄檗宗の成立 90

- 三 了翁道覚の社会救済活動 94

- 四 大藏經の刊行 100

- 五 黄檗宗の教理的な特徴 103

- 六 文化的影響と干拓事業 106

- 七 おわりに 109

第四章 神・儒・仏の三教と日本意識 ···

- 一 はじめに——一八世紀前半の日本意識 112

- 二 儒仏論争と神道 114

- 三 氏系図の国「日本」 121

- 四 「金の世界」へのルサンチマン 130

- 五 おわりに 139

第五章 民衆信仰の興隆

神田秀雄

- 一 はじめに——本章の課題と分析の視点 146
二 「泰平の世」の宗教秩序 148

- 三 「民衆信仰の興隆」の実相とその特質 156
四 おわりに——実相の歴史的意義と明治維新の政治課題 172

第六章 「復古」と考証

高橋章則

- 一 はじめに——岩倉具視の献策と「復古」の歴史像 178
二 本居宣長の「上古封建」論 187
三 菅茶山が看取した宣長の古代像のイデオロギー性 192
四 菅茶山による宣長の「国造」説批判の考証 196
五 地理的な知見から形づくられる菅茶山の国造制論 200
六 おわりに——江戸時代の二つの古代像をめぐって 206

第七章 近代的世界像と仏教——梵曆運動と須弥山儀

岡田正彦

215

- 一 はじめに 216
二 西洋の近代的自然観と日本の仏教 217

三	近代的世界像と須弥山儀——仏教天文学の展開	222
四	天眼と肉眼と仏眼——理論・観測・信仰	229
五	肉眼と天眼——縮象と展象	232
六	おわりに——近代的世界像と日本の仏教思想	236
	オリオン・クラウタウ	241
第八章	宗教概念と日本——Religionとの出会いと土着思想の再編成	

一	はじめに	242
二	言葉と近代	244
三	前近代日本と諸宗教の領域	247
四	幕末維新期における宗教のコンテクスト	250
五	明治国家における宗教の位置づけ	254
六	近代的な学知と「宗教」	258
七	おわりに	263